

カゴボックス



特長・ポイント

経済性に優れる

●鉄線製の同等品に比べ作業が容易であり、短い工期で経済的な施工を行います。

環境、親水性に優れる

●多孔質で透水性に優れており、エコトーンの形成に適しています。砕石や土壌の使用で、魚巢から緑化まで対応できます。

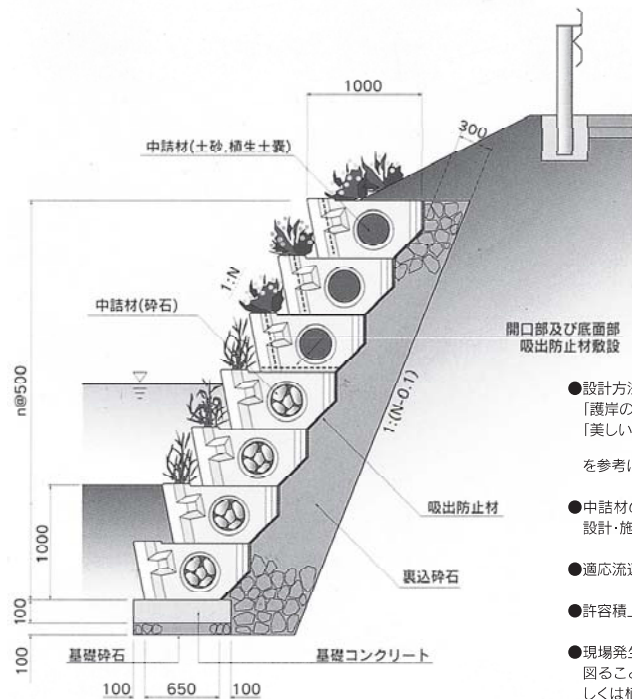
耐久性に優れる

●高い耐久性を誇るコンクリート製品で、腐食や磨耗などの経年変化によって破壊されることがありません。

施工性に優れる

●中詰等の作業はほとんど重機で行うことができます。また可とう性連結により、カーブ施工や沈下等の変形にも対応しています。

標準施工断面図

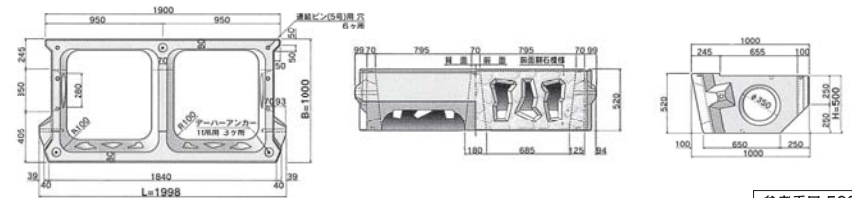


- 設計方法は「護岸の力学設計法」(財)国土開発研究センター「美しい山河を守る災害復旧基本方針」建設省河川局防災・海岸課を参考にしております。
- 中詰材の粒径の算出は、「鉄線籠型多段積護岸工法設計・施工技術基準(試行案)」に準じています。
- 適応流速=6.5m/sです。
- 許容積上げ高は、5.0mまでを標準とします。
- 現場発生土などで中詰を行うことにより植生回復を図ることができます。また種子付きの緑化シートもしくは植生土壌を設置することにより、早期植生が図れます。

安定計算は
背面土種別 C2
単位重量 1.9kN/m³
せん断抵抗角 30度
を想定。

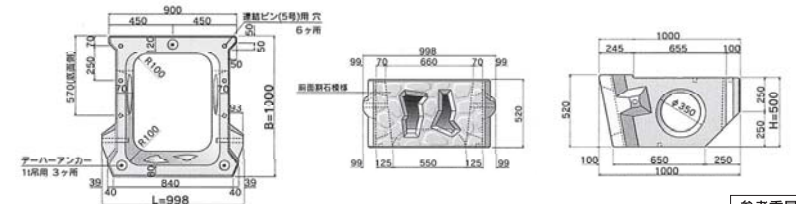
製品寸法図

多段積みタイプ 標準型



参考重量 560kg

多段積みタイプ 1/2型



参考重量 310kg

施工手順

1 基礎工及び法面成形

施工計画に合わせ、床掘、基面整形、法面成形を行い、基礎砕石及び基礎コンクリートを打設して平滑な状態に仕上げる。
○基礎砕石厚 t=100mm



2 製品の据え付け

衝撃を与えないよう、所定位置に設置する。
連結金具により製品の連結を行う。
(ボルト及びゴムプレート使用)



3 中詰材の投入

砕石等の中詰石、又は土砂、土壌など、目的にあった中詰材を選定し、衝撃を与えないように充填する。

注：土砂充填の場合、吸出防止材を前面及び側面開口部に設置すること。

- 中詰材=0.56m²/m²
- 胴込材=0.09m²/m²
(1ブロック当たり)
- 中詰砕石の粒径
標準：Φ150~200mm
魚巢：Φ200mm以上推奨



4 吸出防止材敷設

吸出防止材設置の際は、上流側を上にして10cm程度の重ねしろをとる。



5 裏込砕石投入後、2段目以降据え付け

計画勾配により、2段目以降の設置を行う。(勾配が1:0.3、1:0.5、そして1:1.0、1:1.5の場合は、製品天端突起や連結ピンによって位置合わせが可能。)

注：製品を干渉積みにはしないで下さい。



6 以後、2番からの繰り返し